多摩市立瓜生小学校

学校だより

平成２９年度　第４号
平成２９年　６月３０日

過程は宝もの

校長　吉田　正行

「においは記憶をよみがえらせる」という言葉を聞いたことがあります。

先日、私もこのような経験をしました。歩いていると、どこからか豆を煮ているにおいがしてきました。その瞬間、実家の台所でおはぎを作っている母の姿が浮かんできたのです。私の家は新潟で農業をしていました。お祭りやお彼岸になると、母が小豆を煮てあんを作り、あんころもちやおはぎをこしらえていました。

家の畑でとれた小豆をよく煮て、日本手ぬぐいを縫い合わせて作った袋にいれ、外側から押して小豆をつぶします。小豆の皮が袋の中に残り、こされたあんの汁がボールに溜まっていきます。それを鍋でぐつぐつと煮て、さらにかきまぜながら砂糖を加えて煮詰めるとおいしいあんが出来上がるのです。

私は母の横でその作業を見るのが好きでした。味見と称して煮ている途中のあんをもらってなめるのはなんとも言えない至福の時でした。最近は、家でおはぎをこしらえることはほとんどないと思います。まして、あんから作ることは珍しいでしょう。スーパーに行けば、きれいにパックされたおはぎが売っているのですからわざわざ手間をかける必要はありません。

しかし、幼かった私はそのおかげで、小豆を煮てあんを作る工程を知らず知らずのうちに覚えることができました。また、母とのほのぼのとした思い出が何十年たった今でも鮮明によみがえってきます。時間がかかって大変な作業だったのでしょうが、心に残ることや得るものは大きかったと言えます。

本校では、豊かな自然環境を活用し、学習に栽培活動や飼育活動など体験や感覚を十分に働かせる活動を多く取り入れています。野菜の栽培やビオトープでの観察、田植え体験などできる限り実体験を大切にしています。

地域の専門家の指導で田植えをする５年生

また、瓜生ひろばや地域の方々とプール清掃の前にヤゴを救出しました。助けたヤゴは家に持ち帰ったり、ビオトープに放したりしました。教室では瓜生ひろばの方々のご協力を得て、赤虫をいただき、観察をしながら飼育しています。熱心な飼育のお蔭で、ヤゴも無事にトンボになり、窓から旅立って行きました。時間はかかりましたが、この活動で子供たちのトンボを見る目が変わったことは言うまでもありません。

ものごとを学ぶには、結論だけでなく、そこに至るまでの過程がとても大切です。「ヤゴはトンボの幼虫だ」ということを教えるのは簡単ですが、その成長の様子を実感させるのはなかなか難しいものです。特に、情報が発達している現代ではその過程を省略して、結果だけを知ることは容易です。映像で見て分かったような錯覚に陥る危険性もあります。ですから、手間がかかってもじっくり体験させることの大切さを大人が心得ていなければなりません。

さて、一学期の生活も残り３週間となりました。学習のまとめにしっかり取り組むとともに、何ができるようになって、何がまだ足りないのかを自覚させ、楽しみにしている夏休みを迎えさせたいと思います。